

報 画 報
夏 号

きものサロン

特集

たて紹、白地に腰高柄。似合う薄物の選び方

どんな体型の方も

美しく見える「夏の法則」

涼しく優雅に装う

京のきもの美人の知恵



染め帯歳時記50選

風をまとう——上布・自然布・夏緋

30歳を過ぎたら知っておきたいルールがあります

傘

雨傘、日傘、私たちの日常に傘は欠かせないアイテムです。傘の売り場ではデザインに凝った色とりどりの傘が並び、実用だけではなく、お洒落の一部として求められるかたも少なくありません。

梅雨の時期、きものを着て出かけるのは憂鬱なものです。そんな時季だからこそ、傘をきものの姿の楽しみの一つに取り入れてみませんか。素敵なデザインの洋傘もいろいろありますが、和装ならではの和傘も風情あるもの。日和下駄や時雨下駄と合わせて装えば、気分もぐんと盛り上がります。見て楽しい、差してきれいな蛇の目傘で、雨の日の装いを特別なものに変えてみてはいかがでしょうか。

蛇の目傘(和傘)



和の雨傘には大きく分けて番傘と蛇の目傘、羽二重傘の種類があります。番傘は少し太めの和傘、蛇の目傘は細身の和傘で白い輪の入った形を上から見たときに、蛇の目に似ていることからその名がつけられました。
無地の蛇の目傘1万8900円 / 助六(神楽坂)

現在では無地、柄物も総称で蛇の目傘と呼ばれています。江戸時代に入り、蛇の目傘が一般の雨傘として普及するまでは、庶民の雨具は蓑や菅笠が用いられていました。
無地の蛇の目傘1万8900円 / 助六(神楽坂)

紙に絹を貼り合わせた表面が特徴的で、番傘より大きくなります。一番の違いは、裏側から見ると骨が紅色に染められていること。高級品とされています。
1万5700円 / 助六(神楽坂)

和風洋傘



洋服にもきものにも合わせられる和傘風の洋傘は、お手入れも洋傘と同じなので、気軽に和傘の雰囲気を楽しむことができます。骨は16本組み。色数の多さも魅力です。
蛇の日風洋傘7350円 / 京和傘 日吉屋

通常の洋傘よりも、骨組みの本数が多い和風洋傘は、見た目だけではなくしっかりと傘本体を支えるため、雨風の強い日でもきものに雨がかかるのを防ぐことができます。
蛇の日風洋傘7350円 / 京和傘 日吉屋

色を選べば、きもの色にも合わせられます。上品よくモダンに見える。よい傘は、重宝します。
7350円 / 京和傘 日吉屋

和傘の「傘」の俗字の「傘」が八十と分解できることから80歳のお祝いは傘寿と呼ばれています。真っ白な和傘に寄せ書きをして贈るのも傘を用いたユニークな祝儀の一つです。奴の蛇の目傘2万1000円・助六(神楽坂)

傘の開き方いろいろ のしぐさには 情緒があります

ひとと和傘にあたる雨音は、にはない格別な情緒があるものです。そんな情緒を盛り上げるの持ち方、開き方のしぐさをします。
傘で気をつけたいのは、長いいていない傘を開く場合。紙の漆がそれぞれ張りついているため、無理やりに開くと紙がてしまいます。十分に紙を分から開くようにしましょう。



和傘の開き加減は2段階に調整できます。一人で差すときには手元に近いほうの一丁ハジキでとめて半開きに。



風雨が強いときには傘をすぼめます。



二人で相合傘をするときは、二丁ハジキで傘の開きを全開に。

洋傘と違い、傘をしまうときには柄の部分を下にしてよく乾かします。奴の蛇の目傘2万1000円・助六(神楽坂)



使い終わったら傘を閉じ、先の部分にたまった水をよくきります。

まったく新しい蛇の目傘
伝統的な技術と斬新なデザインの融合を得意とするSINARUグループと日吉屋の共同開発で、蛇の目傘が約三〇〇年ぶりにモデルチェンジ。和傘の骨組みを生かしつつ、和紙の部分にはビニールフィルムを使用し、従来の和傘よりも手入れがしやすく耐久性があり、環境にも優しいWAGASAは、五月二十八日より全国の高島屋主要店舗にて順次発売の予定です。
WAGASA 三万四五〇円/佐藤喜代松商店

